

2019年11月18日 3面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#)  印刷 

大林道路／本社で施工技術発表会開く／若手ら120人参加



入社5年目までの若手15人を含む約120人が参加

大林道路は第29回施工技術発表会を14日に東京都千代田区の本社で開いた＝写真。現場の工夫、施工技術を水平展開するとともに職員のプレゼンテーション能力を向上するのが開催の狙い。全国8支店から応募のあった33編のうち事前審査で上位となった17編を担当者が発表した。新技術6編、特殊舗装6編、災害対策5編から金・銀・銅の各賞と特別賞を選び表彰した。入社5年目までの若手15人を含む約120人が参加した。

発表会のテーマは「おもしろいことにチャレンジ」。ICT（情報通信技術）の駆使といった新しい取り組みを追求すると同時に、ダンプトラックに残るアスファルト合材の有効活用など日々の現場作業の課題を解決するような「今までと違う、ユニークで斬新な取り組みにチャレンジしてほしい」という福本勝司社長の思いを込めた。

応募する担当者には指導員が付き、発表会は経験やノウハウの伝承に役立っている。同社は災害の緊急対応を各地で行っており、今回は風水害の復旧作業などの発表が目立った。

発表会の冒頭、福本社長は9、10月の台風や豪雨の被災地の復旧対応に従事した職員に謝意を示した。その上で維持更新事業の増加を念頭に、「成長を続けるためには、既成概念にとらわれない自由な発想と、いろいろなことに疑問を持って考えることが大事。疑問を見過ごさず、納得するまで突き詰めてほしい」と求めた。

[閉じる](#)

記事ID : 3201911180309

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます